

アルバイトをしていない学生は、やりくりが大変！？

松本匡史

1. アルバイトをしていない私は、やりくりが大変

私は今、就職活動の真っ最中であることを言い訳に、アルバイトをしていません。両親が食費をくれる(なんと月3万も)ので、それをやりくりして日々の生活を送っています。自宅生であり、服を買ったりもしませんし、また、携帯もそれほど使わない私は、普段ならそれで十分生活できます。しかし、先述したように、私は今就職活動の真っ最中なのです。

企業の説明会の多くは、大都市大阪と、都市京都・兵庫で行われています。奈良県民である私は、毎日の交通費がかさみ、最近の昼ご飯はもっぱらパン一個です。

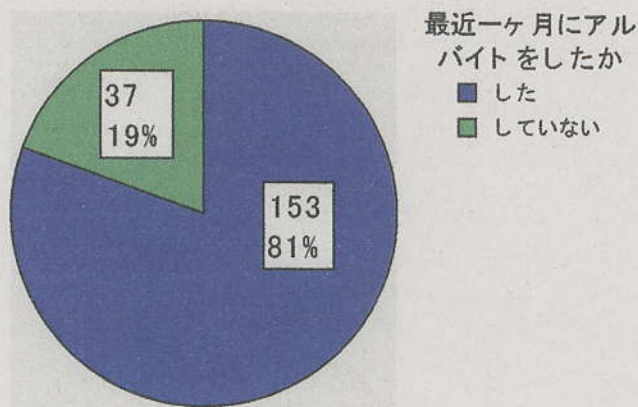
両親に言えば出してはくれるでしょう。がしかし、アルバイトをしていない罪悪感から、なかなか言えるものではありません。

親のスネをかじらせてもらっているアルバイトをしていない学生は、きっと私のように、食費・もしくはお小遣いのうちの食費をやりくりして生活しているのでしょうか。そんな同士の生活を励みに自分も頑張りたい。そんな視点から、今回の調査結果を見てみました。

2. アルバイトをしていない私たち

では、そもそも、私のようにアルバイトをしていない学生はどのくらいいるのでしょうか。下の図1を見てみましょう。

図1 アルバイトの有無



今回の調査によると、37名が「アルバイトをしていない」と回答し、その割合は2割そこそこでした。そんな2割そこそこの私たちの特徴を示すデータが、下記の表1です。

表1 各項目別「アルバイトをしていない人」が占める割合

全体	19%							
部活	している	23%	していない	10%	*表1の見方 アルバイトをしていない者は、部活をしている者の23%を占め、部活をしていない者の10%を占めている。			
交際相手	あり	10%	なし	25%				
住居	自宅	16%	自宅以外 (下宿・学生寮など)	26%				
回生	1回生	28%	2回生	8%	3回生	15%	4回生	29%

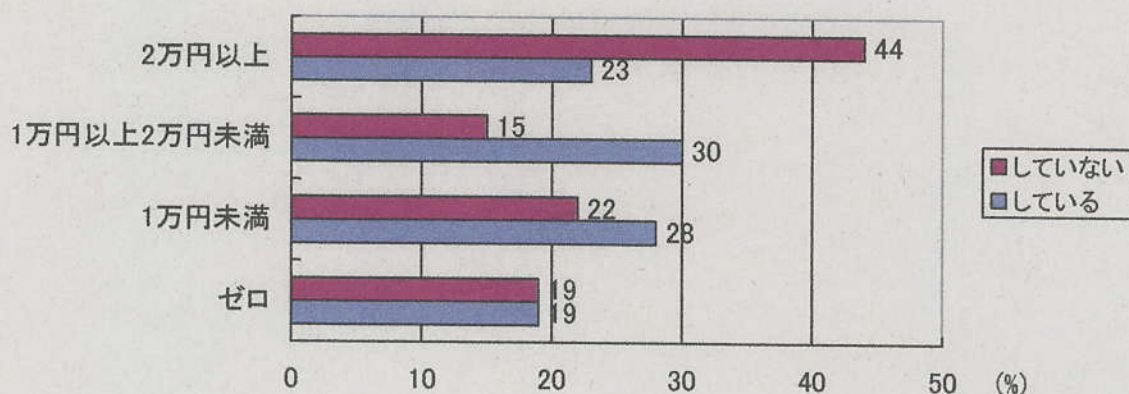
表1から各項目別に見ていくと、アルバイトをしていない学生は、「部活をしている者」の方が13ポイント上回り、「彼氏・彼女がいない者」の方が15ポイント上回り、住居別では学生寮(33%)、下宿(27%)、自宅(16%)の順に多く「自宅以外」は「自宅」に比べ10ポイント上回り、回生別では4回生(29%)、1回生(28%)、3回生(15%)、2回生(8%)の順でした。

つまり、私たちアルバイトをしていない学生は、部活をしており、交際相手がおらず、自宅以外で生活し、1回生または4回生に多い傾向にあるということでした。

3. アルバイトをしていない私たちのやりくり

それでは次に、アルバイトをしていない私たちが、やりくりしているのであろう食費について図2を見てみましょう。

図2 アルバイトの有無と食費



すると意外にも、アルバイトをしていない学生の44%が、1ヶ月の食費に2万円以上かけていることがわかりました。アルバイトをしている学生でも2万円以上かけている人は23%です。これは本当に意外でした。

なぜなら私は自分を基準にして考えすぎていたため、調査するまでは、アルバイトをしていない学生はみんな自宅生であるというイメージを持っていたからです。つまり、朝食夕食共に家庭に用意してある自宅生は、昼食代がかかるだけであるのだから、そんなに食費がかかるわけが無いと思っていたのです。

この私にとって意外なデータは何をあらわすのか考えた結果、アルバイトをしていない学生のなかに下宿をしている学生がいるのではないかと思います。今回の調査で、最近一カ月の間にアルバイトをしていないと回答した 37 名の内訳をみると、自宅生は 19 名(自宅生の 16 パーセント)、自宅以外の学生は 18 名(自宅以外の学生の 26 パーセント)でした。つまり、表 1 でも確認したように、自宅以外で生活している者のほうが、よりアルバイトをしていない傾向にあったのです。

そこで、自宅生と自宅以外の学生に分けて、アルバイトの有無と食費との関係を確認してみました。

図3 アルバイトの有無と食費(自宅)

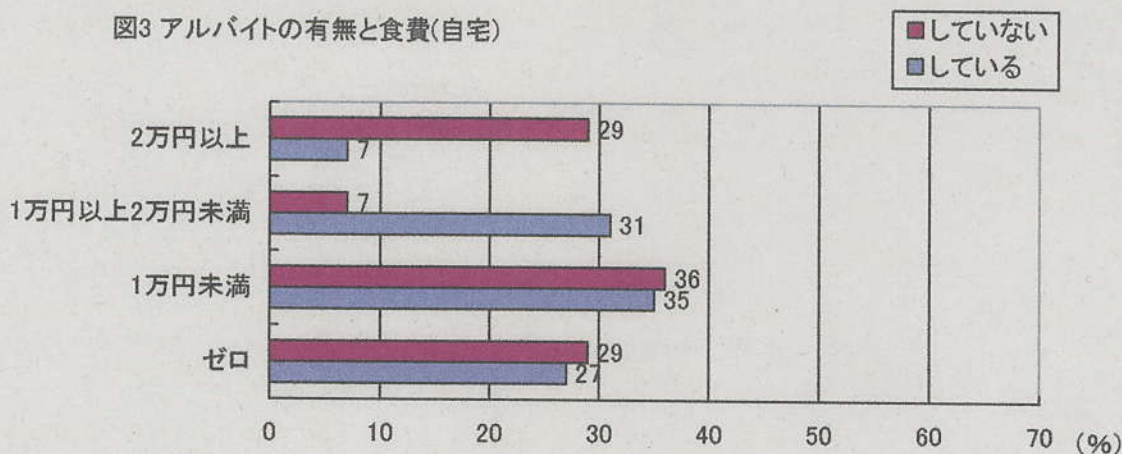
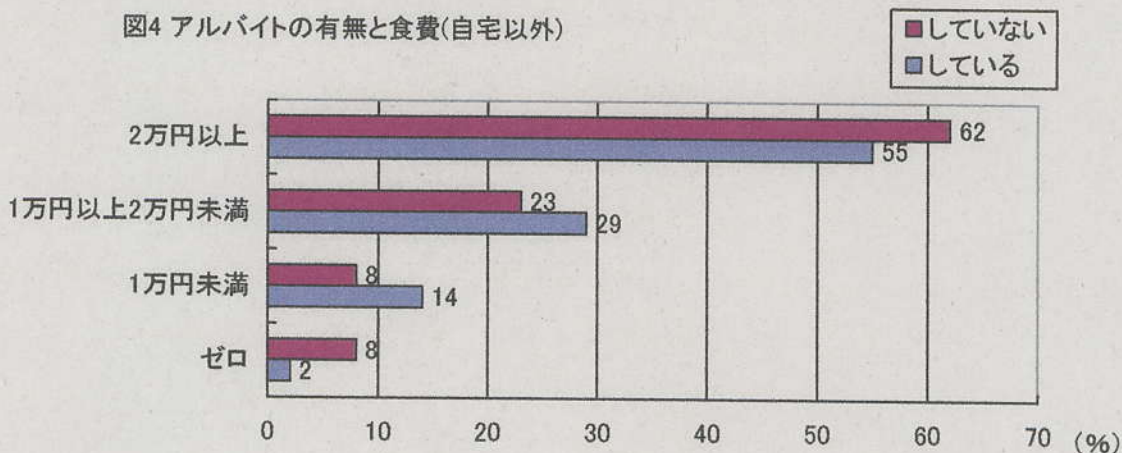


図4 アルバイトの有無と食費(自宅以外)



すると驚くべきことに、もとは下宿なんて出来ないだろうと思っていたアルバイトをしていない学生達が、下宿先で、アルバイトをしている学生達と同じような食生活を送っていたのです。

当然と言えば当然です。下宿生は、三食を自分で用意しなくてはならないのです。外食すれば高くなります。だからといって自炊も、一人分の用意というのは結構高くついてしまいます。

さらに、何と言っても一番の出費は家賃です。住むところにも依るとはいえ、何万円もの出費となります。しかも、水道光熱費を、基本料を含めこれまた数万円払わなくてはなりません。これらは食費と違ってやりくりが難しく、毎月一定額は必要です。

アルバイトをしなくて、食費もやりくりせずに、どうやって生活しているのでしょうか。非常に興味

が湧きます。

今度調査をするときは、アルバイト収入なしで下宿している学生に特化してみたいです。そうすれば、きっと面白いデータがたくさん採れるでしょう。

結局、今回の調査では、私のようにアルバイトをしていない学生が、必ずしも食費をやりくりしているわけではないことが分かってしまいました。つまり、私が励みにしようと期待していた同士は、割と少ないようです。しかし私は、同士だと思っていた彼らの意外にリッチな生活ぶりに、励みではなく対抗心をおぼえ、これを糧にまだまだ続くであろう就職活動への闘志を燃やすのでした。

4. これからの課題と展望

例えば、一ヶ月に親にいくら払ってもらっているのか。これを調べることで、人間が生存権に謳われているような生活をするには、生活保護がいくら必要かわかるでしょう。

また、完全にすねをかじっていることへの罪悪感の度合い。これを調べることで、ニートに陥る傾向も掴めそうです。

今回は公立である大阪教育大学での調査でしたが、私立との比較も面白そうです。

例えば、よりお金のかかる私立に通いながらもアルバイトをしないで下宿している学生はいるのか。いとすれば、その生活レベルはどのようなものなのか。やはり学費がかかる分低いのか。それとも一般に言われているように私立に通う学生のおうちはお金持ちであり高いのか。

今回の調査で一番よくわかったことは、事前に何を調べたいのか考えておいて、そのデータがうまく引き出せる質問・回答者までも予測しておくことの重要性です。しかしこれは、どうしても実際調べていくうちに改良点が見つかっていくものだと思います。

調査というものは、無理に一回のデータから推論混じりに結論を導かず、一回目での発見を基に更なる興味を持って何度も調査をしておすほうが、面白いことができそうだとすることを、私は今回の調査経験から教わりました。